

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072200423		
法人名	有限会社Bamboo		
事業所名	グループホーム和笑	ユニット名	1ユニット
所在地	福岡県朝倉市長谷山393番地10		
自己評価作成日	2020年12月19日	評価結果市町村受理日	2021年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2021年1月13日	評価確定日	2021年1月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

朝倉の観光地、秋月のすぐそばにあり、まわりには四季を肌で感じられる自然がたくさんあります。散歩しながら、田園風景、山々の色合い、流れる雲、青い空、風のおい、彩り鮮やかな花々を見て楽しめますし、何よりも春夏秋冬を肌で感じることができる、この自然いっぱいの環境でやすらいで頂きたい、和んで頂きたいと思って行動しています。縁あっての今、この時、身近な人と毎日を笑顔で。

“グループホーム和笑”の理念は「和みの中で笑みに包まれゆったりと楽しく 残された力で暮らしの喜びと自信を地域の方と仲良く楽しく」であり、理念の最初にホーム名「和笑」の由来である「和みの中で笑みに包まれ・・・」が盛り込まれている。毎朝、ご利用者と理念を唱和し、ベランダで日向ぼっこをしながら山や花を眺め、歌を唄って団欒されている。コロナ禍においても、理念にある「地域の方と仲良く楽しく」が実現できており、以前から交流がある秋月中学校の音楽部の方が、卒業生と一緒に演奏の動画を撮影し、管理者の携帯に送信して下さった。理念にある「残された力で暮らしの喜びと自信を」も大切にされており、ご利用者の役割作りを継続し、洗濯たたみや干す作業をして下さり、トイレに行きたそうな方に声かけをして下さる。何気なく過ごしている生活の中に、様々な感動があることを感じ、今後も更に、ご利用者の心に秘めた思いや感動したことを記録に残し、家族と共有すると共に、「マンネリ」ではなく、「ワクワク」過ごせることを大切に、職員間で更なる結束をしていく予定である。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員のロッカー入口にも理念を貼り出し、又午前中の体操やレクの時間には利用者様とともに唱和し理念に込めた思いを共有できるよう努めている。	管理者研修を受講した際、現在の理念に一部変更している。当初の理念にも、ホーム名である「和笑」の意味が込められており、現在も大切にされている。毎朝、ご利用者も一緒に理念を唱和し、和みの中で笑みに包まれ、ゆったりと楽しく過ごせるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	慣例となっていた地元の中学生や保育園児との慰問を通しての交流が残念ながら新型コロナウイルス関係のため全く出来ていない。	コロナ前は中学生が夏休みにボランティアに来て下さり、ご利用者と交流されたり、保育園児のお遊戯披露を楽しまれていた。敬老会に女性友人グループの方がおかけ演奏をして下さったり、獅子舞の案内も頂いていた。コロナ禍もPTA主催の廃品回収は行われ、保護者の方が回収に来て下さり、地域の清掃活動に職員が参加している。中学校音楽部による合唱も恒例で、コロナ禍も管理者の携帯に演奏動画を送って下さり、ご利用者と演奏を楽しむことができた。	今回の自己評価を通して、「更なる地域との繋がりを強くしよう」という意識が復活している。《和笑》が特別な所では無く、気軽に立ち寄れて、認知症に関するの悩みや相談などを話せる場所であることを地域の方に発信する機会を作ると共に、保育園児や地域のボランティアの方々とのビデオ交流などの方法も検討していく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験やボランティアの受け入れも感染予防対策として全く行っていないが、電話での相談等は出来るだけ対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の活動報告や会議毎のテーマに沿って情報提供したり、意見を頂いたりし、又それを職員間で話し合ったりしサービス向上に活かしている。	コロナ前は、避難訓練・敬老会・クリスマス会、新年会等の行事の1つに参加して頂き、ご利用者と交流されていた。参加しやすく、意見を出しやすい雰囲気作りに努めてこられ、年度末に参加者と一緒に会議内容を検討し、認知症に関する意見交換も行い、年間計画も事前に渡していた。災害対策も報告し、避難場所などのアドバイスを頂いた。コロナ禍(2020年3月以降)は書面会議に切り替え、アンケート方式でご意見を頂き、議事録に残している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困ったり迷ったりした時など、相談し助言や指導を頂いて有難く思っている。	開設前から朝倉市役所の方々にご協力を頂き、現在の場所に開設することができた。現在も不明点「感染対策としての面会の制限や方法」「運営推進会議の開催方法」「台風時の避難の件」等を随時相談し、丁寧にアドバイスを頂いている。	

6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な行為については職員会においても取り上げて話し合っており、正しいケアが出来るよう取り組んでいる。	「身体的拘束等の適正化のための指針」があり、職員間で共有している。委員会活動も行き、転倒予防のための解決策の検討を行っている。他の施設で行われた身体拘束事例を報告し、情報交換している。職員の関わりにより、入居後は元気になり、笑顔が増える方が多い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議でも身体拘束と同様、取り上げて話し合っており、特に言葉による拘束や虐待など与えないよう防止に努めている。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年は特に学ぶ機会がなく、以前の資料を引っ張り出して話し合っており、再確認していくようにしている。	入居時に管理者が制度の説明をしている。入居後も制度利用の必要性を確認し、必要時は制度の説明をしている。制度を利用している方もおられ、情報交換を続けており、今後も制度の勉強をしていく予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に時間をとって読み合わせており、その都度質問も受けながら理解・納得を頂けるよう取り組んでいる。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、面会においてもガラス越しでしか実施しておらず、そういう面からも電話にて近況報告した際に疑問や提案などを頂いている。	コロナ禍は電話での情報交換が増えている。毎月の通信に写真を多く掲載し、暮らしが伝わるようにしている。ホームは1階建てであり、窓越しの面会も可能で、寒い中も面会に来て下さっている。コロナ以前は家族から「遠出をする時、人手が足りなかったら手伝います」等のお言葉を頂き、職員も嬉しく思っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議でも意見が出たりすると、皆で話し合ったりし、できるだけ反映させている。	職員個々の意見は多く、介護の現場で職員の意見を求めることも多い。検討時は「職員の都合に合わせたケア優先になっていないか」等を慎重に確認し、会議で「1ヶ月間はこれでやってみよう」となった際は記録に残し、全員が把握できるように努めている。職員間の助け合いもあり、勤務希望も叶えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の中に、給与に関する事も細かく明記されており、資格取得や日曜出勤の際も反映され、向上心につながっている。		

13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用に関しての性別・年齢等による排除などは一切行っておらず、社会参加などにおいてもお互いを尊重し協力し合っている。	応募者とは事務所で面談し、ご本人の希望を確認しながら配置場所の検討をしている。資格の有無は問わないが、給与体系の説明は丁寧に行っている。面接時は資格取得の希望を確認し、取得できる体制を整え、新人教育も行い、仕事に就く前にマニュアルを読んで頂き、現場指導も続けている。個々の職員の特技(トランプを使った手品・人を笑わせるのが得意等)を把握し、日々の生活で発揮して頂いている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	決して悪意はないのだが、言葉遣いにおいて基本的なところで馴れ合いし過ぎて誤解を招くような対応を稀に感じる事がある。	ホームの理念である「和みの中で笑みに包まれゆったりと楽しく…」を共有する中で、言葉遣いの振り返りや注意を行うと共に、「残された力で暮らしの喜びと自信」も大切に、食事、排泄、入浴等、自立支援の視点を大切にされたケアの実践に努めている。	①今後も理念の実践と振り返りを行うと共に、「身体拘束等の適正化のための指針」のP2「日常ケアにおける留意事項」も活用し、日々のケアの振り返りに活かす予定である。 ②会議の時間を利用し、短時間でも様々な勉強(医療面・ケア面・権利擁護・尊厳あるケア・接遇面等)の機会を増やしていきたいと考えている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	この一年、全ての面で研修などが中止となったが、資料配布しアンケートでの書面にての研修という形でお互いにケア力を高め合えるよう働きかけている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は近隣のグループホームが集まるグループホーム部会も中止となり、以前にも増して交流が取れていない。		

## Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

17	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>話しかけを出来るだけ多くし、有意義なコミュニケーションを取りながら本人の思いを見い出せるよう丁寧に傾聴し情報収集に努めている。</p>		
18	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>面会時間の制限を設けているため話す機会が少なくなったが、その分電話にての報告などより密な信頼関係を作るよう努めている。</p>		
19	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用開始に当たり、家族の方から心配事や要望などの聞き取りを心掛けている。うまく伝える事が困難になってきていれば、表情や行動観察をしっかりとし、適切なサービスが出来るよう努めている。</p>		
20	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>他の入居者の方や職員らと共に、お互いに支えたり支えられる関係を築いていると思う。</p>		
21	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の方と連絡を取ったり、情報を聞いたりしながら本人を支えるために、共に協力し合える立場にいると考えている。</p>		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今は家族の方や馴染みの人達との面会が叶わないが、昔の生活歴を把握する事により何気ない会話やレクの中で現在の生活との繋がりを思い起こせるような働きかけをしている。	生活歴(結婚・仕事・趣味・好きな食べ物など)を教えて頂いている。馴染みの場所や馴染みの人の情報を普段の会話から把握し、家族からも伺っている。今後も更に馴染みの場所等の情報を増やすと共に、コロナ収束後は交流の機会を作っていく予定である。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	『和笑の理念』の中に想いを込めており、それを唱和する事により、支え合って生きていく仲間である雰囲気作りができるよう		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いろいろな思い出が四季毎に浮かんできて、話をしたりアルバムを見たりする事もある。又、以前入居されていた方の奥様であったり、ご主人であったりするが、その方の		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情観察からも出来るだけその方の意向に添うように	日々のレクの時に「好きな食べ物・嫌いな食べ物」「小さい頃の遊び」「家族の名前」「幼馴染みの方の名前」等を教えて頂いている。「寿司が食べたい」「パンを買ってきて」等の要望も聞かれ、今後も専用ノート等の記録用紙を作成すると共に、今後も目線を合わせ、笑顔でゆっくり語りかけ、ゆっくり待つように努めながら、生活歴や馴染みの場所、要望等を把握していく予定である。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される時に色々な聞き取りをし、情報を共有でき、適切なサービスが出来るよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人からの訴えや何気ない発語を大切に傾聴し、現状把握に努めている。		

28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議では、一人一人について話し合っており、随時の新たな情報は報告し合っ共有できるようにしている。	ケアチェック表を活用し、アセスメントしている。「できそうなこと・自立支援」の視点も大切にしているが、職員個々の体力や体調もあり、日々の生活で実践することが難しいものもあり、職員同士の検討を続けている。行動障害が見られる時は原因分析し、解決策の検討を行っており、適宜見直しも続けている。	①今後も更に、ご本人の真の思いや要望を把握するために、交換日記等の活用を検討していく予定である。 ②今後も「個々のケアチェック表」の右下欄に、ご本人の「有する能力(ADL・IADL等)」「各活動の要望」「解決策」を追記すると共に、4表の日課計画表にも「ご本人ができること」「ケア面や医療面の留意点」を追記し、全職員で共有していく予定である。
----	------	--	--	--	---

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りをきちんと実践出来ることを第一として、まずは正しく共有する事に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	あらたな情報を正しく共有し、状況に変化が生じていけば適した		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は活用が出来ていない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所提携の医院から週一回の往診を受け、夜間の急変の場合などの対応も安心して受けられるよう支援する。	往診が受けられるため、ホームの協力医療機関に変更される方も多い。毎週の往診時はバイタル測定値、日頃の過ごし方、入浴状況と排便状態を報告し、緊急な場合はその都度連絡し、指示を受けている。夜勤専門の准看護師が勤務し、情報交換できている。今後も日々のリーダーが中心になり、必要時のバイタル(検温等)測定や確実な内服及び記録を徹底していく予定である。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護者に様子観察に努め、情報を共有できるよう努めている。		

34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在もし入院という事になれば、面会も出来ないままになるので事業所での生活の様子を細かく情報提供するよう、又病院での様子を教えて頂き戻って来られた時のスムーズなケアが出来るよう心掛けている。			
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを希望された場合、ご家族との話し合いを大切にしている。特に重度化されてからは、家族の方のゆれ動く気持ちにもしっかりと寄り添い柔軟な対応を心掛けている。	看取りケアをされており、入居時に意向確認すると共に、体調変化時も家族と主治医と話し合い、ホームで出来ること・出来ないこと等を共有している。かかりつけ医と24時間連携でき、終末期も「大丈夫です。心配しなくていい。連絡すれば来ますので」と言うお言葉を頂いている。訪問看護と夜勤専門の准看護師の勤務のバランスを考え、同法人の別の施設の看護師の勤務も把握し、ホーム前に住む管理者もすぐに駆け付ける体制を整えている。「ここで最期まで」と希望する方も多く、職員とケア内容を話し合い、今後も更に職員研修を行い、1ヶ月間隔のケア方法の確認をしながら家族の方にも寄り添っていきたいと考えている。AEDも準備しており、今後も研修を行っていく予定である。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には研修も訓練も行えておらず、不安な面もあるが連携している医師との密な連絡で指示を仰いでいる。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練はしているが、不十分である。	施設長が地元の消防団員である。2019年11月は「火元の発見から通報、避難誘導の諸動作を正しく行う」事を目標に訓練を行い、2020年6月は消火訓練と避難誘導、2020年9月は部分訓練（消火訓練・避難誘導）を行い、火災の怖さ、火の取り扱いの大切さを話し合われた。訓練には入居者も参加しており、備蓄は水2L、トルト食材3食2日分、紙コップ60P等を準備している。ハザードマップも確認し、台風時等は地域の独居の方の避難を受け入れる予定である。	



#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気をつけて対応しているつもりだが、声のかけ方や(誘い方)単なる会話などの話し方において、馴れ合いすぎのような少し気になることもある。	ご利用者への言葉遣いを大切にされている。方言を使いながらも、尊敬語で声かけするように努め、人生の大先輩として尊厳を持ってケアしていきたいと考えている。馴れ合いの言動が聞かれた時は管理者やケアマネが注意し、職員も振り返りを続けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らの発語の少ない方へも、日頃からのコミュニケーションを大切にしながら、自己決定する喜びを感じられるよう働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしても業務優先になりがちであり、支援の気持ちはあっても難しい。その人らしい過ごし方の把握に努めているが、希望には添えていない事もある。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは声かけしたり、介助したりして心掛けているが、『おしゃれ』の支援までは出来ていない。季節にあった服装や毎日の整容の手伝いの支援は出来ている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんでいただくよう、食材やメニューの紹介をしたり、熱い物を熱いうちに食べて頂くようにしている。現在は配膳は職員がしており、下膳の手伝いやテーブル拭きなどを自主的にされる人もいる。	ご飯はホームで炊き、汁物と副食は宅配を利用している。検食する職員(1人)は同じ食事を一緒に食べており、食欲が沸くよう、その日の献立や食材を説明し、季節が伝わるように努めている。手作りおやつのはきは、ご利用者も一緒に混ぜたり、盛り付けを楽しまれ、食後に食器を重ねる作業やテーブル拭き等を手伝って下さる。嚥下機能が低下している方は主治医に相談し、トロミなどをつけている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事形態については、できていると思う。一人一人の状態に合わせて支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけをしながら、又不十分なような時は何気ない会話をしながらも、助言したりし、清潔に過ごして頂くよう介助している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるだけ、トイレでの排泄ができるよう尿意(便意)がない方でも、見計らって誘導したりしている。	車いす利用の方も、できる限り日中はトイレ誘導を行い、失禁を減らすように努めている。自発的に尿意・便意を感じられるよう声かけを行い、紙パンツ使用の方が、布パンツに変更できた方もおられる。羞恥心に配慮し、トイレのドアを閉めたり、言葉かけに配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や運動によつての刺激や働きかけは毎日のレクリエーションの中で取り入れているが、飲食物などの工夫が個々に応じては出来ていない。ただ、形状を刻み、ミキサーなどと工夫したりしている。排便記録もとり薬対応する時もある。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	職員の都合で決めているところもあるが、(施設)入浴時間はいろいろな情報をご本人から得られる場でもあり、大切にしている。	できる限り、湯船に入って頂いている。湯船では昔話や自慢話などをして下さり、柚子湯も楽しまれている。ご自分で洗える方もおられ、自立支援に努めており、麻痺がある方のマッサージもされている。入浴拒否が見られる方は理由分析し、気持ちよく入浴して頂く工夫を続けている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中は主に運動により身体を動かし学習つぽさも少し入れたレクリエーションで頭を使い、そして昼食後に軽く臥床する声かけをし、ほど良く夜間の安眠への介助をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的を職員一人一人が把握し、正しくきちんと服用して頂くよう、また、間違えて渡すことのないよう確認しあっている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	感染予防の為、外出を控えており敷地内での散策や日向ぼっこなど、季節を肌で感じたり他の方と和やかな時間を過ごして頂いている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は買い物など一緒に出かけていたが、又、家族の方との外出の支援をしていたが今は、病院受診以外は外出を控えて頂いている。	ベランダで日向ぼっこを行い、山や花を眺めたり、敷地内を散歩している。コロナ前はホーム周辺を歩行器で散歩し、眼鏡橋を渡り、パン屋に行かれたり、秋月城の桜の花見、原鶴の昇竜観音、ひまわり見学、三連水車、キンピール花園等にお連れしていた。入居者の方々の「行きたい！」という気持ちと楽しみ、ワクワク感を与えられるよう、今後も声かけに努めていく予定である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持する大切さは理解しているが、その方の状態変化に伴い、被害妄想やまわりの方に渡したりされる事もあり、「貰った」「貸した」などの問題ともなりやすく、収納場所の確認を時々している。欲しいものに関しては家族の方へ相談する事もある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけることの声かけや、かかってきた電話の取り次ぎなどは行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちの良い空間となるよう、整理整頓を心掛け、又、換気にも配慮し不快な臭いなどないように気をつけている。又、壁画を通して四季を味わって頂いている。	リビングで過ごす方が多く、体操や団欒等をされている。玄関からの風が当たる場所があり、スクリーンで風対策をしている。季節の飾りつけをしており、コロナ感染予防でテーブルのレイアウトを変え、適宜換気を行っている。今後も“日めくり日付表”をもう少し丈夫に、大きく作り直す予定であり、浴室の手すりを増やす検討も続けている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外の景色をゆっくり眺めたい方も居られ、ベランダに椅子を持ち出したり、窓越しに太陽を浴びたりできるようなスペースを考えている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室においてはただ単に寝るだけの部屋とならぬよう、できるだけ馴染みのもの等でくつろいで頂けるよう、場合によっては家族写真を飾って頂いたりしている。	入居時は居室に何も置いておらず、自宅から必要なもの(ベッド、筆筒、枕、家族の写真、化粧バック、ご自分で作られたテーブルクロス等)を持参している。ご本人の希望で天体望遠鏡を持ち込まれ、夜空を眺めていた方もおられる。適宜換気を行い、掃除も行っている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	無理なく自ら「やってみよう」「手伝おう」などしたい事が自分なりに出来るような達成感を味わって頂きたいと思っている。洗濯たたみや干す作業、食後の後片付けやトイレへ行ったそうな方への声かけなど、そんな些細な事でも感謝の気持ちを助かった以上に伝え「まだまだ人様の役に立つ」自分に気付いてほしいと願っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				